

## 事業名 新宿区荒木町<sup>あらきちよう</sup>下水道再構築と石組み下水暗渠の保存復元事業

〔下水道新旧施設の一体的活用と松平撰津守上屋敷跡下水暗渠の保存復元〕

受賞機関 東京都下水道局施設管理部、東京都下水道局西部管理事務所

事業実施期間 平成8年3月24日～平成11年3月1日

事業費 1,132百万円

### 技術等の特徴と評価

下水道の再構築工事中に発見された江戸時代の石組み下水暗渠（新宿区埋蔵文化財）を存置したまま、新たなシールド管を接続することで、新旧施設がともに機能するため流下能力が増強した。あわせて新旧下水施設の仕組みを見学できるように整備し、また、一部掘り出した石組みを復元し、先人の土木技術を市民に紹介していることが評価できる。

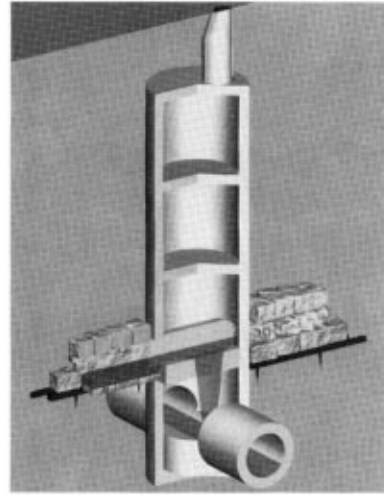
### 事業の概要と効果

今回、再構築工事を行った新宿区荒木町は、甲州街道や靖国通りなどに囲まれた地域で、周辺とは9～10m程の高低差があり、窪地となっている。そのため、時々浸水が発生することから、地元住民の浸水対策への強い要望により、新たにシールド工法で既設下水道管の能力を増強する工事を行った。

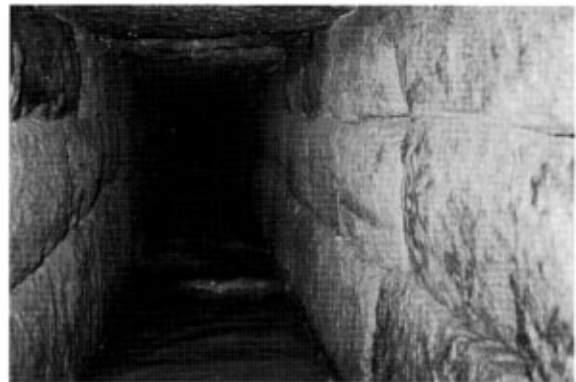
シールド工法に伴い既設管の調査を実施し、地下10m余りのところに石組み下水暗渠（内法横60cm×縦90cm）



当該現場の古地図とシールド工事ルート及び石組み暗渠



石組み暗渠とシールド管交差部のマンホールイメージ図



石組み暗渠の内部（下水が流れている状況が分かる）

を約50m発見した。この地は、美濃高須藩松平撰津守義行が天和3年（1683）徳川幕府から上屋敷を拝領し、屋敷や庭園を築いたと古文書にはあり、発見された石組み下水暗渠は、その庭園の池の排水用で、約320年程昔に築造されたものと推定される。この暗渠は、その後明治半ばには排水路に、大正時代には公共下水道に役割を変え、現在でも十分下水道として役目を果たしている。

今日、歴史的建造物の保存や修景などを通じて、地域の歴史性・文化性などを総合的に保全整備し、新しい町づくりを志向する動きが活発となっている。このようなことも踏まえ、掘り出した暗渠は文化財の一部で、江戸時代の高度の石組み技術を知るうえで貴重であって、また下水道への親しみを高めるためにも有効であると考えられることから、同区内の下水道局落合処理場正門前広場に復元展示した。展示にあたっては、下水暗渠の概要、石積み方法及びコンピュータグラフィックスで描いた立体図などを記した説明板を設置した。

受賞賛助会員 ㈱浅沼組東京本店、住友建設㈱東京支店